

第二回「家老の日記で学ぶ古文書①」―岡本元朝日記」を題材に―

○宝永元年（一七〇四）九月十六日の日記より

〔岡本元朝日記 二十八〕：混架七一三八〇―二八）

【原文】

人雲影を悦ばるゝ者去午二首之
堂上野志門和過番く近水てお合太
付方と後方あゝ答こゝよ新吉馬切
トハ付方馬十振合と処と又腕と打落
さ運たされと顔と切付影をる直退
と付方跡を造りけり長野町言水々
と運て付方た運トハ新吉馬其
色屋敷の由へ込トトトトトト
新方知系トハ付方人十官釣果トハ
忘振ハ知申ハ新野申トトトトトトト
沙汰申ハハ夫々知処トトトトトトト

人関新右衛門、堤伴右衛門と申者、去十二日之
昼上野黒門前辻番之近所にて出合、右

伴右衛門を後よりあミ笠こしに新右衛門切付

申候、伴右衛門も抜合候処を又腕を打落

され、たをれ候を顔を切付、新右衛門立退

候を伴右衛門跡より追かけ御歩行町高水道

之辺にて伴右衛門たをれ申候、新右衛門ハ其

辺屋敷の内へ欠込申候と申候得とも

行方知不申候、伴右衛門十四日朝果申候由、

意趣ハ不知由御様体書ニ申来候、此儀十三日ニ

沙汰承候へ共名不知処、今日右之通ニ申来候、

○元禄十五年（一七〇二）十二月二十三日の日記より

〔岡本元朝日記 十五〕…混架七一三八〇―一五）

【原文】

去年、吾良上野及反^言於^言 御城
 浅野山道及と出入せし由道及が刀で上野及、
 小負^せらぬ^ん殿中^しし事[…]官由道及^ラ
 則切腹^らに^は上野及の^をさ^し入
 隠指^とお^んけ^いけ^い治^りた^ら由道及^が事[…]
 主人の敵^とな^り入^り稱^しし[…]出^し出^し二月
 上野及^が村^に言^はん[…]事[…]御城[…]
 思入^り人[…]殺^し十[…]女[…]人[…]上野及^と討^つる[…]
 人[…]事[…]小[…]負[…]外[…]人[…]討^つて
 古[…]首[…]小[…]持[…]立[…]退[…]御[…]城[…]
 事[…]細[…]水[…]下[…]御[…]城[…]中[…]付[…]御[…]城[…]事[…]
 毎[…]夜[…]下[…]を[…]判[…]申[…]美[…]事[…]下[…]を[…]討[…]け[…]候[…]
 お[…]下[…]候[…]

【解読文】

去々年吉良上野介殿「高家衆也」於 御城

浅野内匠殿と出入候て、内匠殿少刀にて上野殿ヲ

手負せ被成候故、殿中之事二候間、内匠殿ヲ

則切腹二被 仰付候、上野殿ハ是よりさし入

隠居と相見得候、此次第二候故、内匠殿家来衆

主人の敵二候と存入ねらひ候由、然処二今月

十四日夜半時、吉良左兵衛殿「上野介殿子息也」屋敷中へ

忍入、人数十四五人にて上野介殿を討留、子息

左兵衛殿へ手負せ、其外家人共をも討候て

右之口首共手々二持候て立退候由、此御飛脚

立候処へ申来候間、不取合先申越候、追て

委細承可申越由書付指越候、替事二存候、

□毎度申遣候判・巾着、女共申遣候針此便二

相下シ候也、